英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃炉加速化研究プログラム（日英原子力共同研究）
事後評価総合所見

研究課題名：汚染水処理二次廃棄物スラリー及び濃縮廃液の安全な長期貯蔵・処理・処分のための脱水固定化技術の開発

代表研究者（研究機関名）：目黒　義弘（日本原子力研究開発機構）

再委託先研究責任者（研究機関名）：橋本　勝文（京都大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：工藤　勇（アドバンエンジ株式会社）

英国側研究機関：シェフィールド大学

研究期間及び研究費：平成２７年度～平成２９年度（３年計画）　６３百万円

項 目		要　　約
１．研究の概要		福島第一原子力発電所における汚染水処理に伴う廃棄物の長期貯蔵において、廃棄物の漏えいや発生水素ガスによる燃焼のリスクが存在する。これを低減し、安全かつ安定な貯蔵の実現に資するため、リン酸系固型化材を用いる既存技術を基に、この用途に適する固化技術について英国のシェフィールド大学と連携して研究し、固化体硬化時の脱水処理により、水素ガス発生の抑制と、Sr 及びCl の安定な固定化を同時に行う、新しい固化体作製技術を開発することを目的とし、以下の研究開発を行う。 １）模擬廃棄物の合成と評価 ２）脱水固定化技術の開発 ３）放射線照射の影響評価 ４）混合固化物の長期安定性評価
２．総合評価	S	・福島第一原子力発電所における汚染水処理に伴う廃棄物を安全かつ安定に貯蔵するための新しい固化体製作技術の開発をするため、しっかりした基礎が構築できたこと、日英それぞれの得意分野を活かした、相乗効果が発揮されたことが評価できる。
		Ｓ）極めて優れた成果があげられている Ａ）優れた成果があげられている Ｂ）相応の成果があげられている Ｃ）部分的な成果に留まっている Ｄ）成果がほとんどあげられていない